

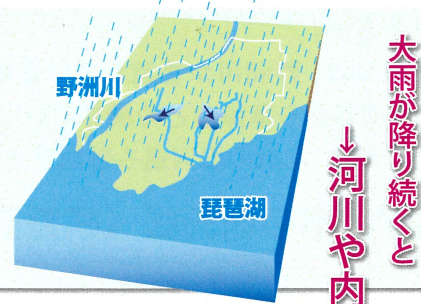
3-3.大雨が降り続いた時に想定される水害

守山市に大雨が降り続いた時には、以下の3段階の水害によって、被害が拡大することが想定されます。それぞれのはん濫シミュレーションの意味を理解し、避難を考える際の参考にしましょう。

- ① 身近な河川などから水があふれ出し、小規模な浸水被害が発生するおそれがあります。

参考資料：地先の安全度マップ

滋賀県下の複数河川の同時はん濫、内水はん濫を想定したもの
(滋賀県 土木交通部 流域政策局 流域治水政策室作成)



- ② 野洲川がはん濫し、甚大な浸水被害が発生するおそれがあります。

参考資料：野洲川浸水想定区域図

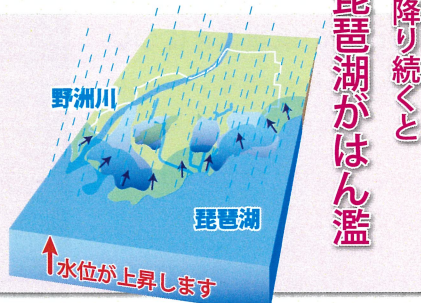
1000年に1回や100年に1回の大雨により野洲川の堤防が決壊した場合を想定したもの
(水防法に基づき令和元年10月25日指定 琵琶湖河川事務所作成)



- ③ 琵琶湖の水位が上昇し、湖岸付近の浸水が長い時間続くおそれがあります。

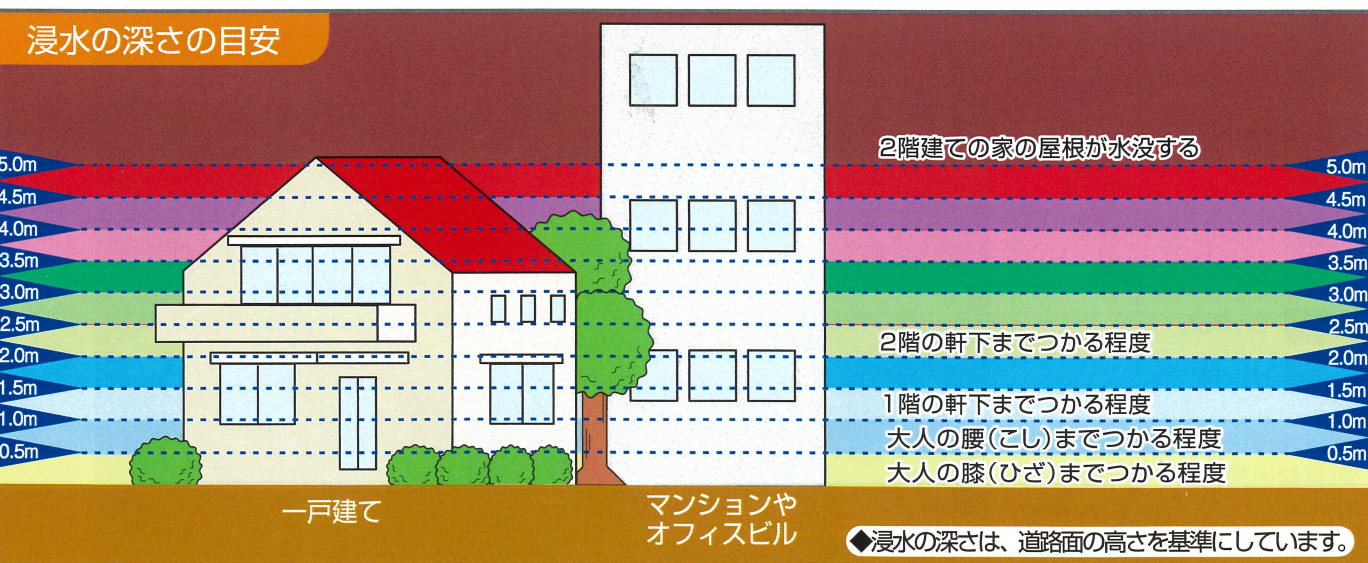
参考資料：琵琶湖浸水想定区域図

琵琶湖の水位がB.S.L.+2.6mまで上昇した際に、浸水を想定したもの
(水防法に基づき平成31年3月19日指定 滋賀県作成)



3-4.想定される浸水の深さと建物等の関係

洪水ハザードマップは、浸水の深さを色で示しています。浸水の深さの目安はおおよそ図のとおりです。

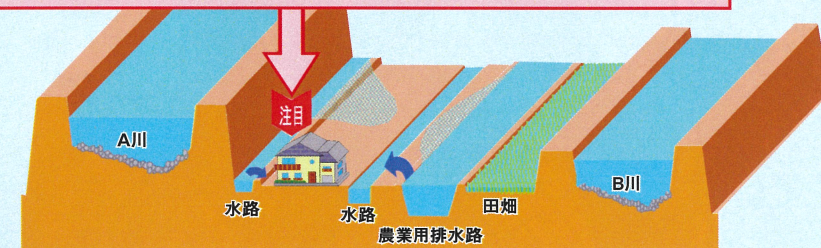


3-5.地先の安全度マップ（10年確率・100年確率）

「地先の安全度マップ」は、自宅や勤務先などの場所が、どのくらいの水害リスクがあるのかを滋賀県がシミュレーションにより浸水の深さを求めた図であり、どれくらいの雨の時に大河川だけでなく、中小河川や農業用排水路など身近な水路の氾濫も考慮したものです。

例えば、10年に一度程度降る雨（概ね1時間に50mm）、100年に一度程度降る雨（概ね1時間に109mm）および200年に一度程度降る雨（概ね1時間に131mm）*が発生した場合、どの程度の浸水深となるおそれがあるのかを確認できます。

「河川の治水安全度」ではなく、視点を変えて、人々の暮らす「地先の安全度」に注目しています。



* 200年に一度の図は、本防災マップには掲載しておりませんので、滋賀県ホームページからご覧ください。
地先の安全度マップ(最大浸水深図) <https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5168711.pdf>

コラム 野洲川大改修について

- 野洲川大改修を知っていますか？
- 笠原地先から下流部分の野洲川は人工の「放水路」と知っていますか？
- 「びわこ地球市民の森」や「ビッグレイク」は、かつて野洲川だったと知っていますか？

かつて野洲川は「近江太郎」と呼ばれ、南流と北流に分かれ、また、天井川であり、10年に1度は大きな洪水が発生する危険な河川でした。



昭和28年9月の大洪水をきっかけに、地元で治水を求める運動が始まりました。

事業主体である国の建設省(当時)から、南流と北流の真ん中に放水路を整備する案が示され、貴重な美田や家屋を提供しなければならない地元から大きな反対運動が起きましたが、「未来の安全・安心」のため、最終的に、地元の皆さまに深いご理解とご協力を頂き、世紀の大事業と呼ばれた「野洲川大改修事業」が昭和46年から昭和54年にかけて行われ、野洲川は、「100年に1度の大雨に耐えられる河川」として生まれ変わりました。

令和元年6月2日には、野洲川「放水路」の暫定通水から丸40年を迎えたところです。

野洲川大改修が行われていなければ、昨今の大雨により、守山市でも甚大な水害が発生していたかも知れません。

私たち守山市民は、野洲川大改修の歴史、また、野洲川大改修にご尽力ご協力頂いた先人及び地元の皆さまへの感謝を忘れてはなりません。

※ 昭和54年4月
第一段階の施工が概ね完了した状況